

カラスと人間が良好に暮らせるまちづくり

2019年度 プロジェクトデザインⅡ 担当教員: 島谷祐司 先生
クラス・チーム: EL302-5メンバー: 金子大輝、竹森裕人、前田凌佑、永瀬唯、長江泰知

テーマ選定理由

金沢市では兼六園や金沢城公園などの観光地のカラスによる被害が問題になっており、その対策を検討する。

現状調査

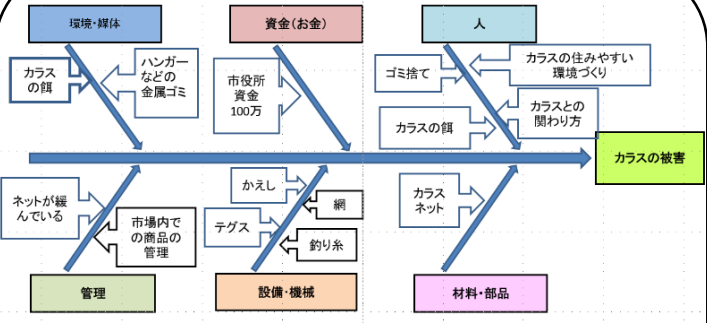
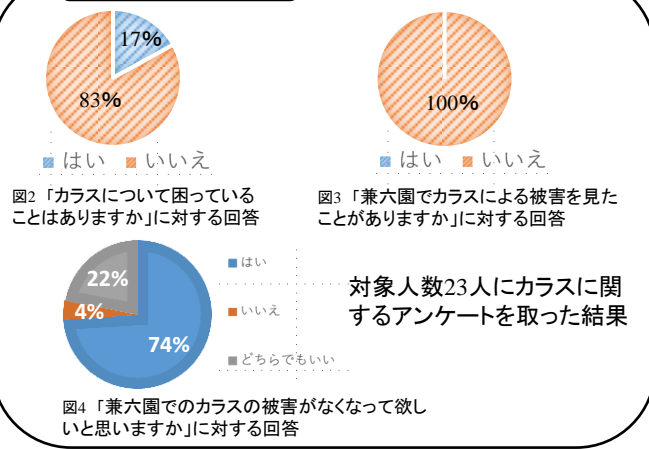


図1 原因追究型特性要因図

現状調査により、人の管理やカラスの学習能力などが問題となっていることが分かった

ニーズの確認



前提条件

カラスの駆除はダメ、共存を目指す

原状値/目標値

原状値: 秋冬になると兼六園や金沢城公園に5千匹はいる
目標値: 0にするのは無理では? 千匹まで減らせれば上出来?

既存策と残存問題点の例

富山市のカラス対策・・・カラスに警告する看板
警告文を見た人が立ち止まって目を向けることで、人の視線を嫌がる習性のあるカラスは恐怖を感じるという。



図5 「カラス居座り禁止」と書かれた看板

残存問題

- カラスがいなくなるわけではなく、別の場所にまた巣を作る可能性が高い。
- 看板をカラスが住み着くところすべに設置出来ない。(町が看板だらけに...)

問題解決のためのアイデア創出

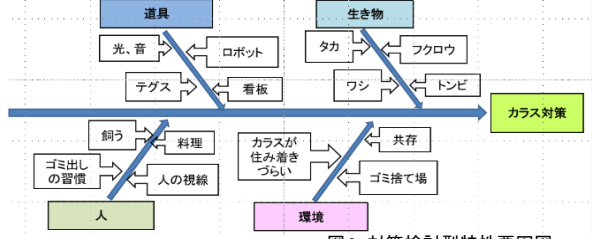


図6 対策検討型特性要因図

対策するには場所が多く、すべての場所にそれぞれあった対策が出来ない
→ 対策場所を兼六園に絞る

創出したアイデア

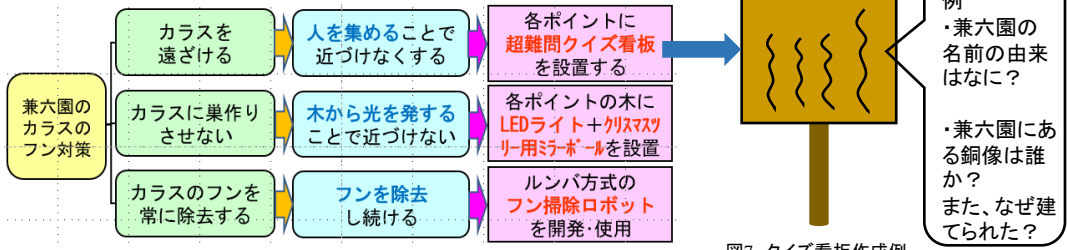


図7 クイズ看板作成例

- 長所
- 費用が掛からない
 - 周りに害を及ぼさない
 - 人が楽しめる
- 短所
- 設置数に限りがある
 - クイズを創作する必要がある

活動のまとめ

- 看板に人の視線が集まるため、カラスが寄り付かなくなる。
- クイズを設置することで訪れた人達を集め、かつ楽しませる。
- うまくいけば、兼六園の来場者UP。